北海道の平成29年度観光入り込み客数

過去最高、前年度比2.6%増の5610万人

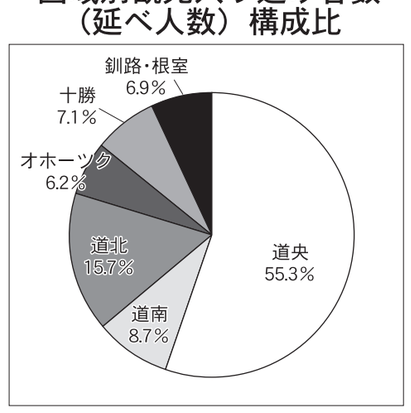
平成29年度　観光入り込み客数（実人数）

区分		日帰り客	宿泊客	計	前年度比	構成比
第１四半期（４～６月）	道内客	1,098万人	251万人	1,349万人	＋0.9%	87.5%
	道外客	2万人	140万人	142万人	＋1.4%	9.2%
	外国人	－	51万人	51万人	＋21.5%	3.3%
	合計	1,100万人	442万人	1,542万人	＋1.6%	100.0%
第２四半期（７～９月）	道内客	1,551万人	284万人	1,835万人	＋2.6%	86.6%
	道外客	10万人	203万人	213万人	＋0.9%	10.1%
	外国人	－	70万人	70万人	＋20.8%	3.3%
	合計	1,561万人	557万人	2,118万人	＋3.0%	100.0%
第３四半期（10～12月）	道内客	470万人	238万人	708万人	＋2.0%	78.6%
	道外客	5万人	125万人	130万人	＋4.8%	14.4%
	外国人	－	63万人	63万人	＋25.7%	7.0%
	合計	475万人	426万人	901万人	＋3.8%	100.0%
第４四半期（１～３月）	道内客	589万人	244万人	833万人	＋1.1%	79.4%
	道外客	2万人	118万人	120万人	＋0.8%	11.4%
	外国人	－	96万人	96万人	＋18.9%	9.2%
	合計	591万人	458万人	1,049万人	＋2.5%	100.0%
合計	道内客	3,708万人	1,017万人	4,725万人	＋1.8%	84.2%
	道外客	20万人	586万人	606万人	＋2.0%	10.8%
	外国人	－	279万人	279万人	＋21.3%	5.0%
	合計	3,727万人	1,883万人	5,610万人	＋2.6%	100.0%

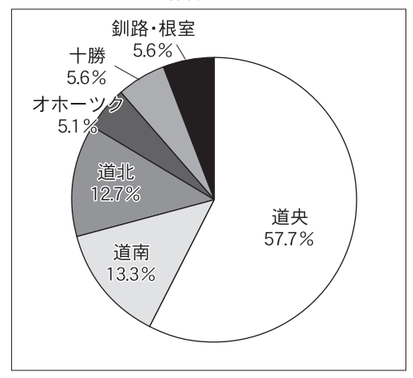
圏域別観光入り込み客数（延べ人数）

圏域	観光入り込み客数	前年度比	増減数	構成比
道央	8,060万人	＋3.5%	＋274万人	55.3%
道南	1,274万人	▲7.2%	▲98万人	8.7%
道北	2,293万人	＋2.5%	＋57万人	15.7%
オホーツク	906万人	＋8.5%	＋71万人	6.2%
十勝	1,042万人	＋9.0%	＋86万人	7.1%
釧路・根室	1,000万人	＋9.6%	＋87万人	6.9%
合計	14,576万人	＋3.4%	＋477万人	100.0%

圏域別観光入り込み客数（延べ人数）構成比



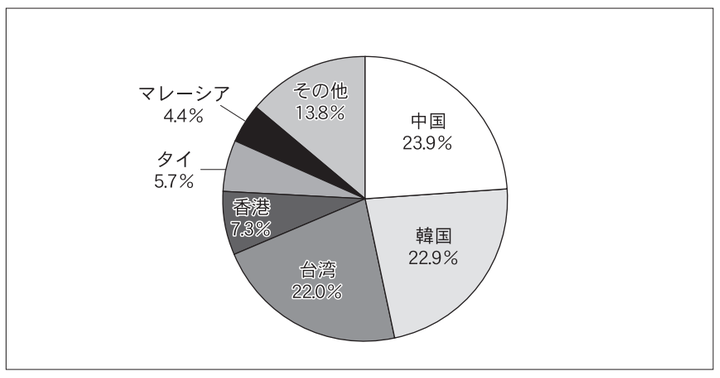
圏域別宿泊客延べ数 構成比



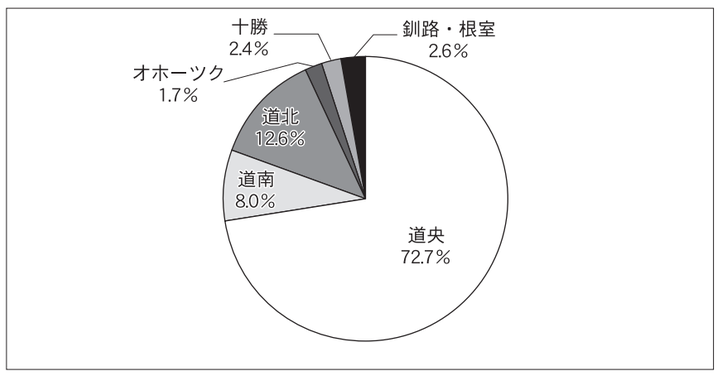
圏域別宿泊客延べ数

圏域	観光客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	2,149万人泊	＋8.5%	＋169万人泊	57.7%
道南	494万人泊	▲0.5%	▲2万人泊	13.3%
道北	474万人泊	＋7.7%	＋34万人泊	12.7%
オホーツク	189万人泊	＋2.6%	＋5万人泊	5.1%
十勝	209万人泊	＋5.1%	＋10万人泊	5.6%
釧路・根室	208万人泊	＋4.8%	＋10万人泊	5.6%
全道	3,723万人泊	＋6.4%	＋225万人泊	100.0%

国・地域別訪日外国人来道者数（実人数）構成比



圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数 構成比



平成29年度 観光消費額単価

（単位：円）

区分			日帰り	宿泊
第１四半期（４～６月）	道内客	観光	4,393 （ 4,334）	23,485 （ 23,004）
		ビジネス兼観光	5,085 （ 4,482）	16,820 （ 15,695）
	道外客	観光	12,614 （10,250）	79,129 （ 78,543）
		ビジネス兼観光	5,625 （ 5,471）	29,767 （ 26,441）
	外国人	観光	9,208 （10,915）	131,135 （135,072）
		ビジネス兼観光	8,877 （ 7,363）	71,501 （ 63,972）
第２四半期（７～９月）	道内客	観光	4,061 （ 3,783）	26,713 （ 26,572）
		ビジネス兼観光	4,051 （ 4,718）	15,548 （ 16,114）
	道外客	観光	25,495 （25,304）	87,852 （ 87,743）
		ビジネス兼観光	5,578 （ 5,677）	26,782 （ 28,855）
	外国人	観光	8,552 （ 8,883）	143,042 （129,166）
		ビジネス兼観光	8,695 （ 7,176）	76,317 （ 67,962）
第３四半期（10～12月）	道内客	観光	4,313 （ 4,252）	24,118 （ 23,546）
		ビジネス兼観光	4,158 （ 3,458）	15,497 （ 17,223）
	道外客	観光	22,136 （21,556）	73,631 （ 70,036）
		ビジネス兼観光	6,004 （ 5,722）	27,122 （ 30,422）
	外国人	観光	8,868 （12,063）	131,428 （126,394）
		ビジネス兼観光	8,407 （ 9,435）	76,513 （ 63,196）
第４四半期（１～３月）	道内客	観光	3,660 （ 3,322）	24,070 （ 23,503）
		ビジネス兼観光	6,187 （ 3,475）	17,806 （ 16,900）
	道外客	観光	24,430 （24,500）	77,083 （ 78,239）
		ビジネス兼観光	8,089 （ 5,536）	26,418 （ 30,516）
	外国人	観光	＊ （ 8,792）	134,705 （130,650）
		ビジネス兼観光	＊ （ 5,810）	＊ （ 68,868）

※（ ）内の数値は前年度の単価
※道内客、道外客、外国人客の「ビジネス兼観光」および外国人の日帰りの単価は、観光庁から提供された値を掲載。ただし、第４四半期の外国人客については観光庁から未提供のため、「＊」としている

調査データ

道南除く5圏域で増加
外国人も21.3%増、最高に

北海道経済部観光局はこのほど、平成29年度（29年4月～30年3月）の観光入り込み客数を公表した。実人数は5610万人で、前年度比2・6%増と過去最高。全道179市町村から報告のあった観光入り込み客数（実人数）を合計した総数（延べ人数）は1億4576万人で、同3・4%増加した。

観光客の増加について道では「国や道、市町村、観光振興機構などの関係者が効果的なプロモーションなどに取り組んだのをはじめ、アジア圏との国際線が新たに就航されたことなどから、平成28年度の台風や大雪等により減少した旅行需要も回復した」としている。

実人数の内訳は、道内客が同1・8%増の4725万人、道外客が同2・0%増の606万人、外国人が同21・3%増の279万人。

また日帰り客は同2・6%増と過去最高。全道179市町村から報告のあった観光入り込み客数（実人数）を合計した総数（延べ人数）は1億4576万人で、同3・4%増加した。

観光客の増加について道では「国や道、市町村、観光振興機構などの関係者が効果的なプロモーションなどに取り組んだのをはじめ、アジア圏との国際線が新たに就航されたことなどから、平成28年度の台風や大雪等により減少した旅行需要も回復した」としている。

実人数の内訳は、道内客が同1・8%増の4725万人、道外客が同2・0%増の606万人、外国人が同21・3%増の279万人。

また日帰り客は同2・0%増の3727万人、宿泊客は同4・0%増の1883万人。

四半期別では第3四半期（29年10～12月）が同3・8%増加したのをはじめ、全て増加した。

6圏域別の観光入り込み客数（延べ人数）は、釧路・根室が同9・6%増、十勝が同9・0%増、オホーツクが同8・5%増と大きく伸び、道南を除く5圏域で増加。道南は新函館北斗駅前のホテルオープンや、奥尻島フェリーターミナルした道の駅ピア21しほろなどの観光施設への来場者数が好調」（十勝）、「道東自動車道阿寒インターチェンジの開通効果が続く」（釧路・根室）などの話題があった。

訪日外国人来道者数は知名度や後志管内などのワイン、札幌市や室蘭市の夜景など、地域の魅力を発信」（道央）、「ラベンダーをはじめとする花観光や、青い池、雲海テラスなどの観光スポットが根強い人気」（道北）、「8月に神の子池が阿寒摩周国立公園の区域に含まれ、認知度が向上」（オホーツク）、「移転リニューアルした道の駅ピア21しほろなどの観光施設への来場者数が好調」（十勝）、「道東自動車道阿寒インターチェンジの開通効果が続く」（釧路・根室）などの話題があった。

ほかの圏域では、「空　訪日外国人来道者数は実人数で同21・3%増の279万人と過去最高。国・圏域別では中国が66万6千人、構成比23・9%と最も多く、以下、韓国、台湾が続く。前年度からの伸び率は、中国が21・8%増、韓国が50・7%増、台湾が16・1%増。タイは5・5%、マレーシアは1・4%それぞれ減少した。

中国は「査証（ビザ）発給要件の緩和に伴う個人旅行者の増加」、韓国は「直行定期便の新規就航や増便が相次ぐ」、台湾は「函館、旭川への定期便が通年で運航され、9月にはピーチ・アビエーションの台北―新千歳の定期便も新規就航」などの話題があった。

訪日外国人の圏域別宿泊延べ数は道央が551万人泊で、全道に占める割合は72・7%。2位の道北（12・6%）を大きく引き離している。前年度比は18・9%増加。ほかの圏域も全て前年度から10%以上増加している。

観光消費額単価は四半期別、客層別、日帰り・宿泊別で多くが前年度から増加している。